

女性研究者のプレゼンスとキャリア

北海道大学
安部由起子

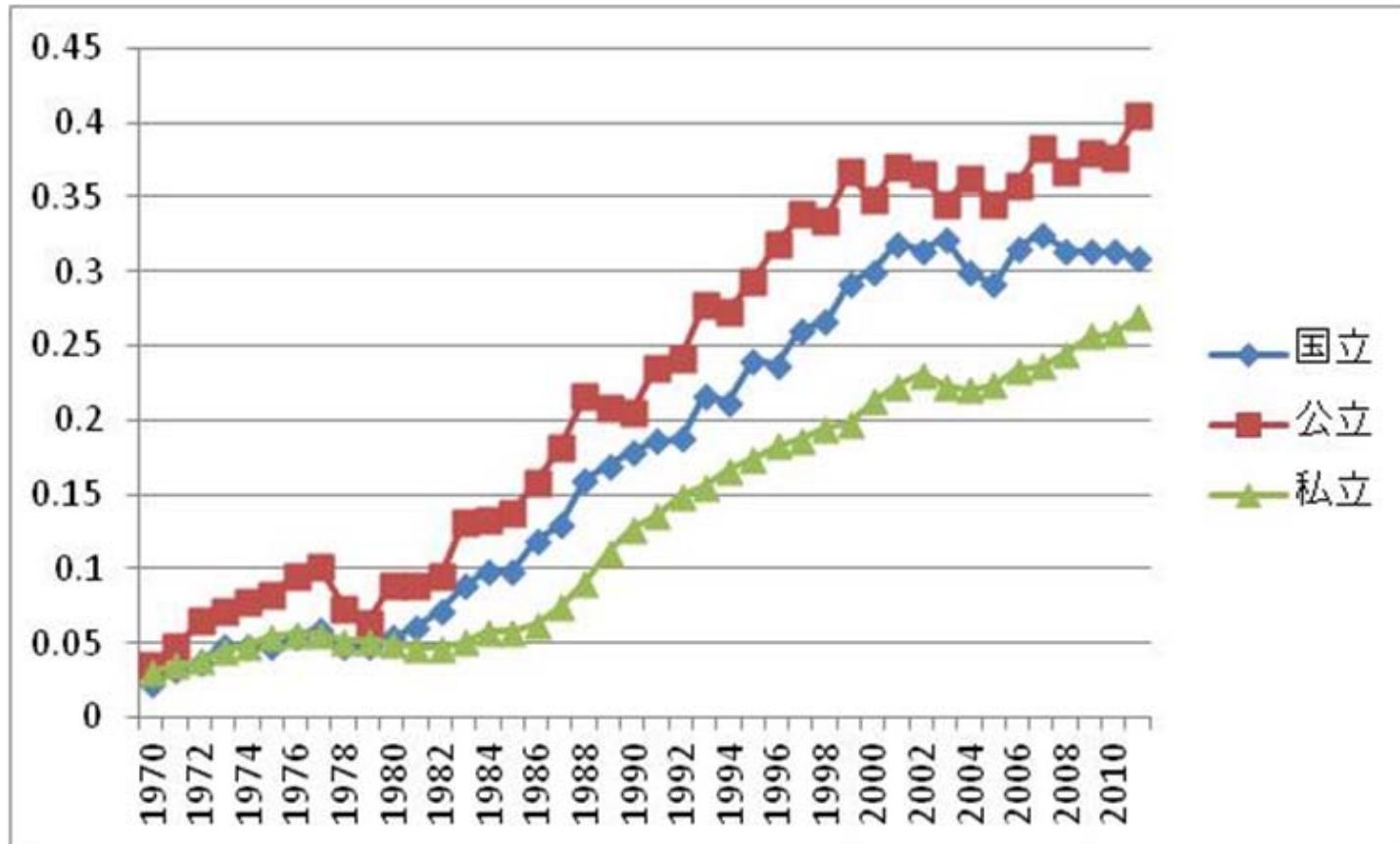
この資料で引用している統計資料の作成にあたり、窪田康平、北條雅一、吉田恵子の諸氏には多大な尽力をいただきました。深謝いたします。

日本における経済学分野での、女子学生の割合とその推移

(以下は主に学部の数字)

- 1980年代から上昇。その後も上昇している。現在30%程度だが、国立・公立でやや高め。
- 地方出身の女性は地方の国公立に入学する可能性が高いのかも？(地元志向は女性のほうが男性より強い、国公立は授業料が低い、等の理由か？)

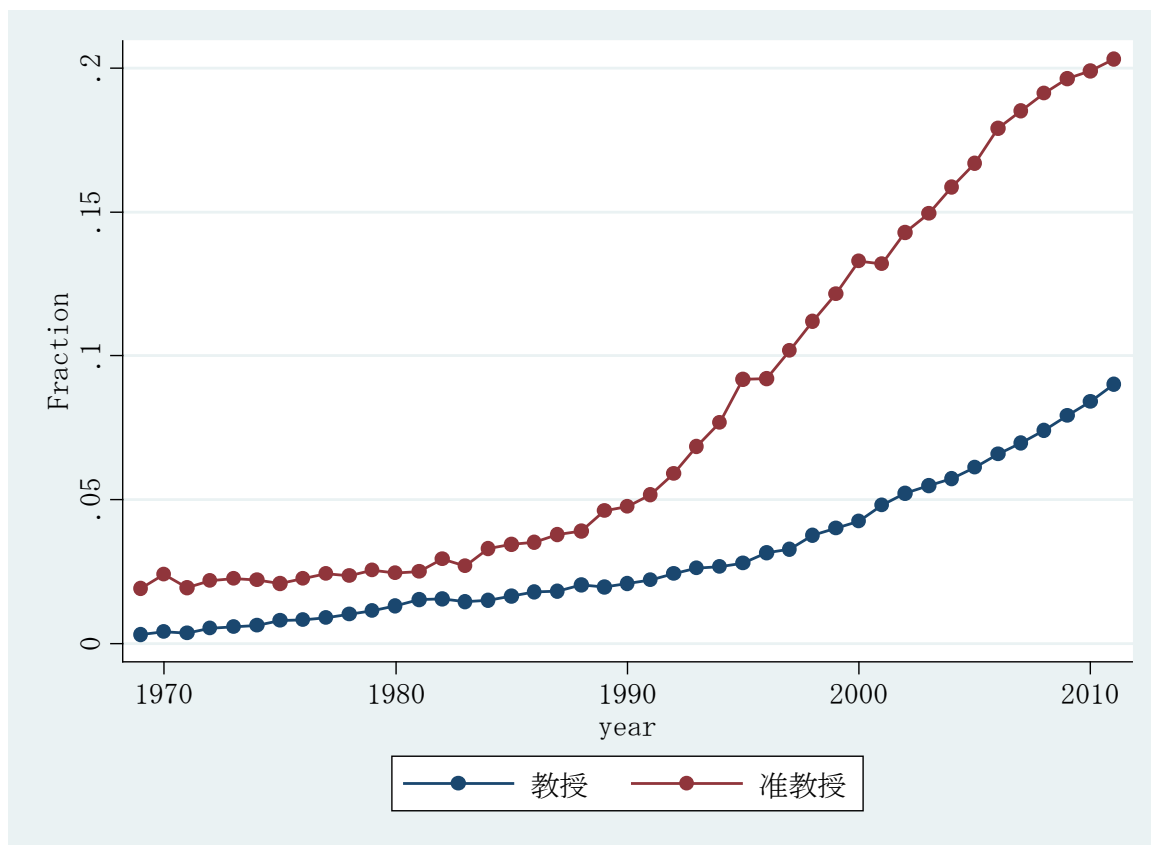
女子学生比率(経済学部および関連領域)



日本における経済学分野での、女性 大学教員の割合とその推移

- 2000年頃から上昇が加速。ただし、准教授（助教授）までのランクでの上昇と比べ、教授は上昇が遅め、かつ現時点での割合も低く、8%程度（長期的には上昇すると思われるが）。
- また、研究志向のトップクラスの大学で女性が少ないことは、海外のメディアでも取り上げられている。

女性教員比率（経済学および関連領域）



若手の就職状況

- 経済学分野での、任期付き採用の実態はどのようなのか？
- 予備アンケートの実施（28名から回答あり）
 - 現在若手・中堅の研究者で、採用直後からの職が、期限付きであったかどうかを調査
 - 男女差・・・女性のほうが、期限なしの仕事に就く確率がやや高め？
 - 学位取得が最近であるほど、任期付が多い。
- 今後、より大規模な調査の実施を計画中

女性・若手支援のために、何が必要か？

- 国としての方針（科学技術基本計画、男女共同参画基本計画）
- 大学としての採用における具体的な施策（ポイントシステム、女性に限定した採用等）

女性研究者のメンタリング

- AEAのCeMENTは非常に充実している。Japanese Women Economists Network (J-WEN) も、今回の学会(セッション当日朝)に実施。
- メンタリングは若いときに受けて、その成果を長年活用することが望ましい(教育は若い年齢で受けて、長期の将来期間にその成果を享受することでリターンが上がる)。若手は積極的に参加してほしい。しかし、志があれば、若手であるなしにかかわらず、参加してほしい(最後は安部の個人的意見)。

Japanese Women Economists Network 主催
日本経済学会 後援



Women Economists Mentoring Workshop

日本経済学会秋季大会にて、教育、研究、ワークライフバランス等について、先輩女性経済学者とお話しする企画です

Date: 10月8日（月、祭日）, 8:00am~9:00am

Place: 九州産業大, 2号館3階, 2W305

Women only. Free of charge.

Kids (any gender) and brown bag (朝食持ち込み) **OK!**

以下のサイトで事前登録をお願いします(10月5日まで)

<http://dl.dropbox.com/u/77921380/J-WEN/Mentoring.html>



共同開催: 日本経済学会主催「若手・女性研究者のための特別セッション」

10月8日(月) **14:20~16:40** **2E407** 教室 (登録不要、男女)